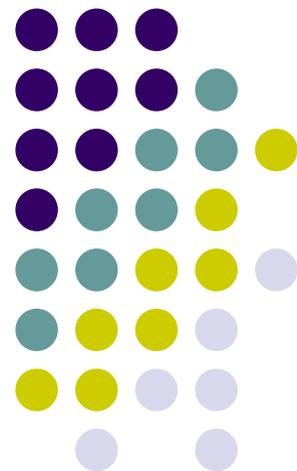


災害時情報提供についての 提言

～ 大規模災害発生時における情報提供に関する懇談会(2007.3.14) ～

関西学院大学災害復興制度研究所

山中 茂樹





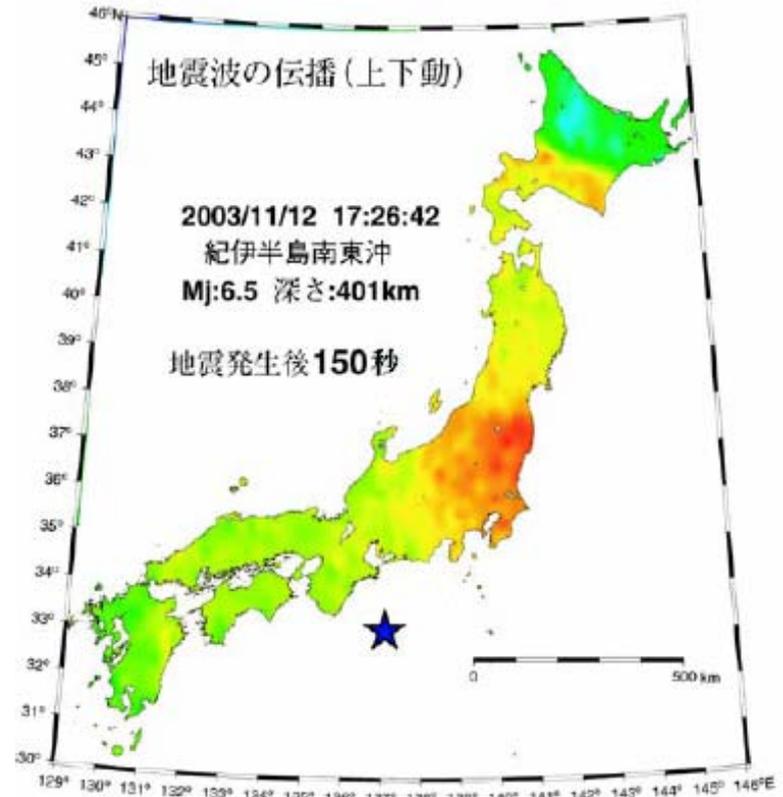
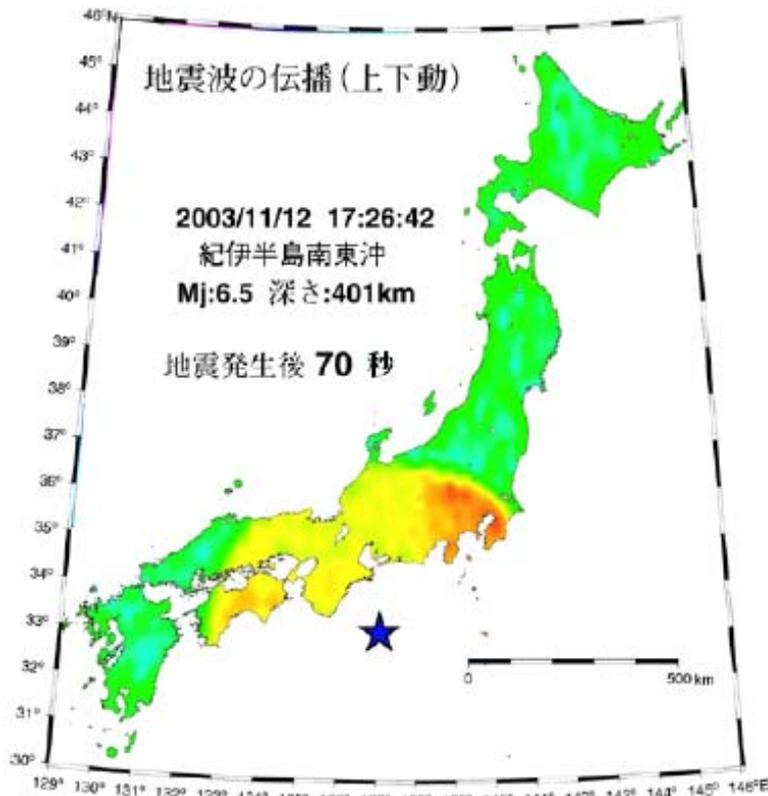
本日の話題提供

- 情報の加工について
 - 要望1: ワンポイント解説
 - 要望2: カテゴリー化
 - 要望3: 見通し情報
- 情報の提供方法について
 - 提案1: 災对本部事務局と記者クラブの同居
 - 提案2: 災对本部会議の公開
 - 提案3: 情報プラットフォームの構築
 - 情報 : ここだけ新聞の応援協定
- 最後に



要望1: 欲しいワンポイント解説

異常震域



2003年11月12日に紀伊半島南東沖深さ398kmで起きたMw6.3の地震

日本地震学会広報紙なみふるNo43(2004.5)



情報の味付け・意味づけを！

- 紀伊半島沖に震源があるのに、近畿で揺れず、東京で揺れた異常震域の問題、福岡県西方沖地震でビルの破壊はないのに、窓ガラスが多数散乱した建築構造上の問題など、災害ごとの特色ある事例について、ワンポイント解説が欲しい。生のデータも大切だが、一般の人やボランティア、メディアも参考にすることを考えれば、情報の味付けが、利用者のその後の行動に役立つのではないか。



要望2: めざせ、情報のカテゴリー化

—Userとしての意見

- **わずらわしいInet surfing**
 - 気象庁、内閣府、消防庁、厚労省、国交省、自衛隊、被災自治体、JR.....
- **めんどうな検索**
 - スクロール大変なPDF形式。必要情報にたどりつくのが大変
- **少ないビジュアル情報**
 - 地名、河川名はあっても位置関係がよくわからない
- **粗い情報の分類・整理**
 - 自然現象の科学情報、危険情報、被害情報(人的・物的)、支援情報、施策情報

Menu.....

Japan & World Now

- 全国災害 Now
- ワールド災害 Now
- 過去に発生した災害

119 Now

Rescue's Point
ワンポイント・レスキュー

Get Close To Rescue!
読む知るレスキュー

Fire Dept. Journal
目黒消防24時

LINK! LINK!
役立つリンク集

Information.....

- 弊社について
- このサイトへのリンク
- 報道関係の方へ
- お問い合わせ

Today's Head Line 本日の注目ニュース

- Ⓜ 大規模災害速報はこちら [詳細へ>>](#)
- 👉 鳥インフルエンザ関連情報(随時更新) [詳細へ>>](#)
- 👉 海外の鳥インフルエンザ動向(随時更新) [詳細へ>>](#)
- 👉 「タミフルもったいない計画」 [詳細へ>>](#)
- 👉 ノロウイルスの感染 ピーク越す(随時更新) [詳細へ>>](#)
- 👉 タクシー業のノロウイルス対策 ver.2(PDF) [詳細へ>>](#)

Japan & World Now 最新!日本と世界の災害ニュース



2月28日から3月1日にかけて、米国中西部のアラバマ州やミズーリ州などの広い範囲で竜巻が発生、死者20人、負傷者40人以上の被害をもたらした。[詳細はこちら](#)で(提供:ロイター)

- ▶ [全国災害 Now > 特集ページへ](#)
- [台風関連情報](#) (随時更新)
[台風情報](#) (随時更新)
- [北海道佐呂間町](#)で竜巻災害
- [三宅島火山](#) 情報(毎日16:30更新)
- ▶ [ワールド災害 Now > 特集ページへ](#)
- [インドネシア](#) ジャワ島中部地震情報
06年5月27日発生 of ジャワ島中部地震についての関連情報サイトを特設しています。

Hot News 新着情報あれこれ

- 🕒 コラム新着・更新情報
 - ▶ ワンポイントレスキュー「Vol.67 ■地震によるエレベータ閉じ込め」 [詳細へ>>](#)
 - ▶ ワンポイントレスキュー「Vol.65 ■帰宅困難者問題を考える(2)」 [詳細へ>>](#)
 - ▶ ワンポイントレスキュー「Vol.62 ■突然変異もある鳥インフルエンザ」 [詳細へ>>](#)
- 🕒 その他の情報
 - ▶ 【セミナー案内】宇宙技術の防災利用シンポジウム [-new-](#) [JUMP](#)
 - ▶ 警察庁、振り込め詐欺事件の電話番号を公表 [JUMP](#)
 - ▶ サイト内検索のご案内 [JUMP](#)
右上のキーワードの部分に、検索したい言葉を入れて「GO」をクリックしてください

MYRESCUE NOW

小田急電鉄小田急小田原線
1日ま平常通り運転しています。
03/08 05:37

Powered by NEWSTAG

Rescue now
コーポレートサイト
rescuenow.co.jp
開設しました。
[詳しくはこちら](#)

3rdWATCH
3rdWATCH2.0 new!
レスキューナウの法人向け
BC(事業継続)支援サービス
はこちら
[詳しくはこちら](#)

今起きた災害、事故の情報が
あなたのケータイに!
[マイレスキューについて](#)

SHOPRESCUE
Emergency Supplies & Emergency Provisions
今月のおすすめ商品!
これだけは揃えたいレスキューナウオリジナルセット「1dayレスキュー」
電池不要の手回し式充電!その他充実した多機能付き「手回し式充



カテゴリー化の例

- **災害情報**: 震度分布、降雨量、風速etc
- **危険情報**: 余震情報、水位情報、台風のコース、地盤情報etc
- **被害情報**: 人的被害、物的被害(住家被害、施設被害、農産物被害) etc
- **支援情報**: 消防、警察、自衛隊、土木、砂防、水防、ボランティアetc
- **施策情報**: 災害救助法、被災者生活再建支援法、激甚法etc



要望3：できれば見通し情報を

- 自衛隊、緊急消防援助隊の出動見通し
- 近隣自治体の応援見通し
- ボランティアセンターの設営
- 道路・交通機関の状況
- ライフラインの状況

「こんご、どうなるか」「こんご、どうするか」

提案1

災害対策本部事務局と記者クラブの同居





行政側からみた狙い

- 一種のembed方式である
- 災害対策本部事務局へ記者を同居させることにより、情報の共有化、被災者の救援という共通目的に向けた意識の共有化をはかる。
- ただし、無制限に記者を同居させることは物理的にも、心理的距離感の観点からも難しいので、地元記者クラブの構成メンバーに限定する。
- 実例：神戸市



行政側にとってのメリット

- 情報発信の必要性が生じた際、その都度、タイミングを逃さずに発表ができる。
- 間仕切りにホワイトボードなどを使えばポストイットなどで連絡事項を張り出したり、周知したいことを書き出したりする事も容易である。
- 発表時間(活字メディアの締め切り時間と電波メディアの放送時間、中央紙と地元紙の締め切り時間への配慮)や会見場の準備、加盟各社への連絡など、いちいち記者会見の設営に気を使う必要がなくなる。
- 記者クラブ加盟社が入手している情報を災対本部が共有することも可能となる。記者と雑談する機会も増え、メディア各社が現在、なにに一番関心を抱いているかも把握しやすい。

デメリット



- カメラがいつ何時、災対本部内部をスウィングするかわからない。このため、災対本部要員は常に緊張を強いられる。また、視聴者に出っ歯の職員が笑っていると勘違いされ批判されるなどの問題が起きた。
- 一番の問題は記者クラブ加盟社以外の扱いをどうするかである。当然、加盟社以外から苦情が出るうえ、加盟社の中にも潔しとしない意見が出る可能性もある。



改善策

- 同居はペン記者のみとする。
- カメラは適宜、必要な場合に許可する。
- 加盟社以外は別に記者だまりを用意し、記者クラブに伝える際は同報装置で広報する。
- 別室にモニターテレビを用意し、事務局内の映像を常時、映すなどの方法も考えられる。

提案2：災害対策本部会議の公開





行政側からの見方

- これも一種のembed。意思形成を共有してもらうことによりSympathyを醸成する。また、記者会見の手間が省ける。
- ただ、首長に決断力、判断力が乏しいと逆効果になる恐れもある(醜態をさらす)。
- さらに、記者会見の回数が減ることにより首長のメディアへの露出が減るというデメリットもある。



改善策

- 首長の政治的立場、さらには被災民への精神的働きかけを考慮すると、なるべく現地での陣頭指揮と現地会見を増やすことが重要である。(台湾大地震での李登輝総統)
- 災对本部会議の公開は初動対応時に限り、多くの政策判断を要する復興対策を検討する時期になれば、非公開となるのが通例である。
- 事例：鳥取県、新潟県、有珠山噴火災害の現地災害対策本部



提案3：情報プラットホームの構築

- 官公庁、被災自治体、被災地内の交通機関、ライフライン企業、マスコミ各社、NPOをリンクさせた情報プラットホームを定型的に構築し、全国をネットワーク化する。
- 全国を何ブロックかに分け、サーバーを各国立大学に置く(例：北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、広島大学、九州大学、徳島大学、琉球大学、金沢大学)
- 各ブロックごとに情報ボランティアを中心にした災害時情報団を組織し、発災後、ただちに災対本部に入るよう協定を結ぶ。
- 一地域が被災した場合、ほかの地域がミラーサイトを構築する。
- 課題：日常から運用する必要があるが、関係機関の協力が得られるかどうか。

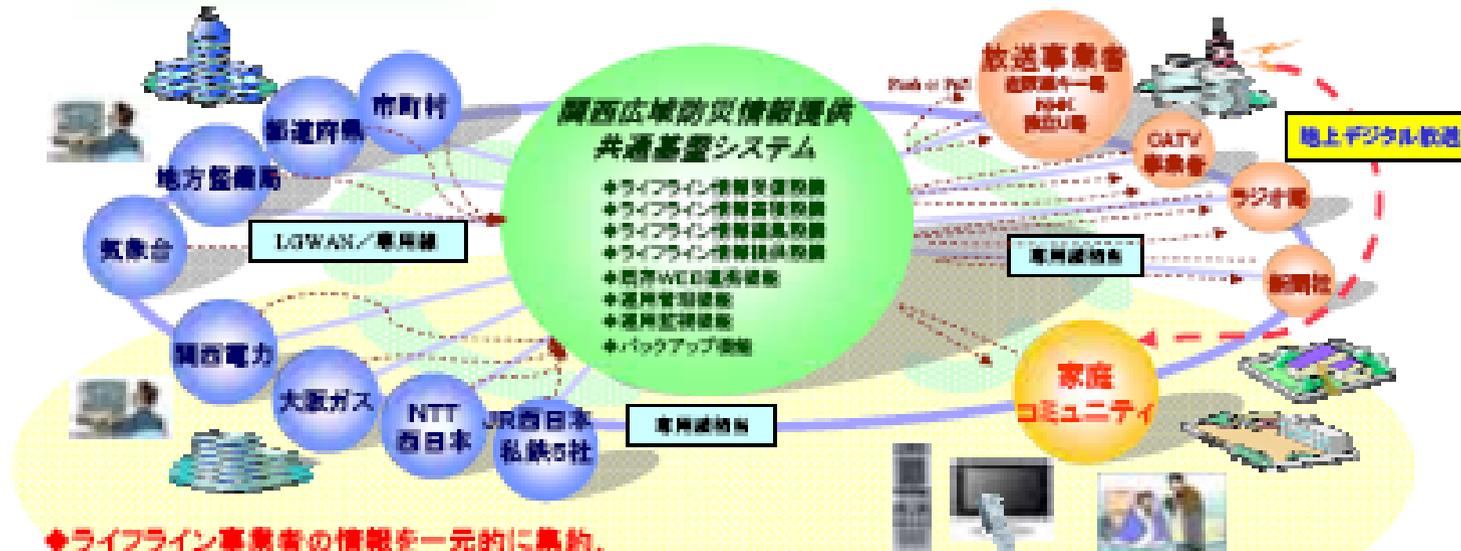
共通基盤システムの目指す姿

◆自治体の情報を集約し、迅速かつ正確に提供

- 自治体による情報提供先と他自治体情報の参照先を一元化することにより、行政界を超えて災害時情報を効果的に提供、情報管理を効率化
- LGWANまたは専用線接続による可用性の向上
- 災害時処置の迅速性、的確性向上

◆ライフライン情報を集約し、住民に情報提供

- 情報参照先の一元化による効率化
- 電子的共通フォーマットデータ取得により、情報入手の速度・精度の向上（個別のFAXによる情報授受の非効率運用から脱却）
- ライフライン情報を住民にワンストップで提供



◆ライフライン事業者の情報を一元的に集約、迅速かつ正確に提供

- ライフライン事業者による情報提供先と他社情報参照先を一元化することにより、災害時の情報管理を効率化
- 住民に対する迅速かつ正確な情報提供により、企業としての社会的信用度の向上
- 他社情報、自治体情報との連携を図り、自社の持つライフライン情報を効果的に提供

◆住民による情報参照/取得の効率化

- 災害時に住民が必要とする情報を体系的に整理された情報ソースからワンストップで入手可能
- 放送波の利用により、輻輳のない確実な経路から情報を入手可能



情報：ここだけ新聞

- 生活情報には大学の授業料免除など被災全地域に関係のあるものから、入浴サービスなど校区単位でしか役に立たないきわめて狭い範囲のものまである。マスコミ各社には往々にしてこれらの情報がFAXや電話で届けられる。平時なら、記者がもう一度、情報元に当たり直すなどして情報の真偽や細部を確認するが、災害時は移動しながら活動しているNPOや自衛隊、拠点がはっきりしない団体などさまざま、なかなか裏が取れない。しかも、入浴サービスなどは情報を受けてから少し掲載を遅らせると場所が時間が変わっていることも少なくない。さらに、中央紙は地方版や特設面、テレビ、ラジオはローカル枠で報道するが、それでもエリアが広すぎて被災者にとっては不必要な地域の情報が含まれていることも少なくない。そこで、有珠山噴火災害、さらには新潟県中越地震で登場したのが「被災者記者」による「ご当地新聞」「ここだけ新聞」である。有珠山噴火災害では北海道新聞が被災者を臨時記者として採用し、ご当地新聞を発行した。新潟県中越地震では、北海道新聞がミニ新聞発行車を新潟日報に貸し出し、同社が「ここだけ新聞」を発行した。これだと、被災者の目線で機動的な生活情報新聞が発行できるだけでなく、被災者の臨時雇用にも役立つ。



事例

米ノースリッジ地震(1994.1.17)の際の対応

- ロサンゼルスタイムス
 - Project rebound 地域社会の円滑な復旧をめざし、被災者向け情報を大量に発信
- テレビの特別番組
 - Recovery Channel 多数の官庁が救援・復興に関する情報を発信した。

阪神・淡路大震災

- 朝日新聞 大震災ネットワーク
- 毎日新聞 希望新聞

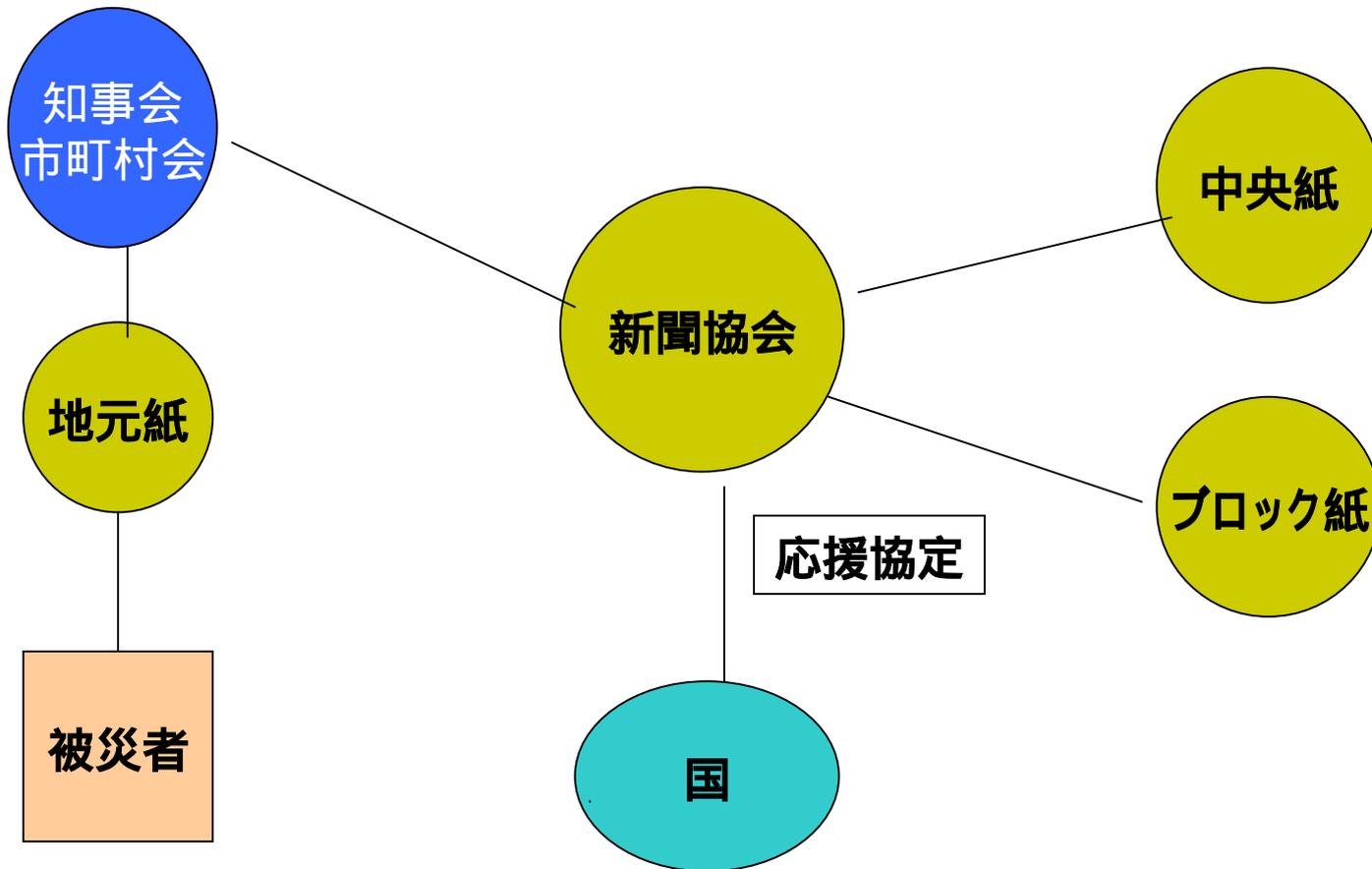


被災地の中で新聞発行

- 提案：ミニ新聞発行車は中央紙か大きなブロック紙しか持っていない。国、ないしは日本新聞協会などが仲介して地元紙に貸し出す。あるいは自治体が借り、地元の被災者を雇用して生活情報新聞、あるいは行政新聞を発行する方法も考えられるのではないか。



ミニ新聞発行車貸し出しシステム





最後に

- 本本当に議論しなければいけないのは.....
 - 被災最前線の基礎自治体 広報力アップの手だてを
 - 1 . 広報専門員の要請と応援協定
 - 2 . 地域FM、CATVの活用
 - 3 . 情報ボランティアによる情報団編成
 - 4 . 情報モニターの養成・ネットワーク化
 - 5 . アナログ情報の収集強化(オフロードバイク隊など)
 - 6 . 県民局・地方振興局など県庁出先機関の応援